

日本老年看護学会創立30周年記念シンポジウム
第2部 生活者としての視点から考える：認知症ケアの未来図

認知症の人にやさしい地域づくりを目指して
—訪問看護の立場から—

遠藤 泰子

広島県看護協会 訪問看護事業局

私は約20年の訪問看護経験を経て、現在訪問看護の統括部門に勤務している。この間、訪問看護の状況は訪問看護ステーション数の増加、難病等医療依存度の高い医療保険訪問看護利用者数の増加等大きく変化した。認知症を取り巻く社会状況も令和元年に「認知症施策推進大綱」が策定され、認知症の人や家族が安心して暮らせる社会づくりが目指される社会に向けて大きく変化した。一方で訪問看護の現場では、認知症と診断された本人・家族がその事実を受容できず苦しむ場面、医療・介護従事者を含む支援者が持つ認知症の人へのスティグマやエイジズムを感じる場面等多々あり、認知症理解推進や、認知症の人や家族を支える社会実現の難しさを感じていた。

そのような中、若年性認知症カフェの立ち上げに関わる機会があった。認知症当事者やその家族、認知症サポーター等支援者との交流を通じ、認知症当事者にとっての安らぎの場、多方面からの支援をうけることができる場としての認知症カフェの役割を経験し、自分の視野を広げることができた。

本シンポジウムでは訪問看護や若年性認知症カフェ立ち上げの経験から学んだ地域での認知症理解促進や、認知症の人にやさしい地域づくりに必要な視点について述べる。

【ご略歴】

2004年 公益社団法人広島県看護協会訪問看護ステーション 入職

2020年 公益社団法人日本看護協会認定 認知症看護認定看護師資格取得

2025年 公益社団法人広島県看護協会 訪問看護事業局 訪問看護事業部